

主催：日本天文学会
共催：千葉市科学館・千葉大学

極限環境での最先端天文学

2018.3.18 SUN

時間 12:40 開場
13:00 会長挨拶
13:15 講演会
15:10 終了

会場 千葉市科学館
対象 中学生以上・一般向け

参加費 無料(事前申し込み不要)
※展示見学もする方は入館料が必要となります。

定員 180名(先着順)

講演1 13:15 ~ 14:10



**アンデスの巨大望遠鏡
アルマで挑む暗黒の宇宙**
国立天文台 チリ観測所 所長 阪本 成一

ALMA (アルマ) は、南米・チリの標高5000mのアタカマ高地にある巨大電波望遠鏡です。66台のバラボラアンテナを組み合わせ、宇宙からの電波を高感度で受信するとともに、ハッブル宇宙望遠鏡の最大10倍に相当する解像度を表現することができます。2013年の本格運用開始以来、銀河や星・惑星系の形成の現場などを、従来にない解像度で描き出してきています。講演ではアルマの現状や最新の観測成果について紹介します。

講演2 14:15 ~ 15:10



**南極点からニュートリノで探る
極限高エネルギー宇宙**
千葉大学 ハドロン宇宙国際研究センター
センター長 吉田 滋

南極点から広大な宇宙を探索するプロジェクトがIceCube (アイスクューブ) です。遠方の宇宙から、激烈な宇宙の姿を伝えるメッセンジャーである「ニュートリノ」を捉え、宇宙からの高エネルギー放射メカニズムを探っています。南極点直下の広大な深氷河に特殊な検出器を5160基埋設し、誰も見たことのない宇宙ニュートリノ信号を測定しています。本講演では、アイスクューブ実験の全貌と、観測データから何がわかり何が謎として提示されているのかを解説します。

